

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム津山 南館		
所在地	岡山県津山市小田中138-1		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3390300048-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市南方町2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成27年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者様の出来る事、やりたい事を日々探求し、物作り、食事作り、おやつ作りをみんなで楽しんでする」をケアの目標に今までできていたことに加え、玉ねぎの皮むき、洗い物、新聞たたみ、など出来る事を積極的にお願したり、いろんな行事を取り入れました。忘年会ではみんなで鍋の準備から始め、野菜を切ったり、しめじをほぐしたり、人参の型抜きをしていただいて楽しく食べました。おてたまを縫って頂いたり、首巻きを編んでいただいたり、飾り作りもたくさんしました。花見の後はいちご狩り、ぼたん寺、あじさい園、鉱山資料館、秋祭りはだんじりを見に行きました。消防隊の音楽会、紅葉狩りなど、皆さんお出かけ好きで、とても喜んでいただけました。今年も幼稚園、小学校より交流に來られ、運動会を観に行きました。12月より高校生のボランティアも受け入れるようになりました。近所の方ととんとんをして、一緒に甘酒をのみました。その都度、とても良い表情を見せて下さいました。ここで生き活きとして過ごしていただけるよう職員が楽しんで考えケアしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げた理念の通り家庭的な雰囲気の中で安心して健康に、そしてご家族との良きパイプ役になれるよう意識して日頃のケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も幼稚園、小学校より交流に来られたり、運動会やお祭りを観に行きました。12月より高校生のボランティアも受け入れるようになりました。近所の方ととんどをして、一緒に甘酒をのみました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアに来られる小学生、高校生、一般のボランティアの方に認知症高齢者の様子や接し方を伝えたり、理解を深めていただけるよう働きかけをしています。地域の総会にも参加し、より多くの方に施設の事を知っていただく事ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では市役所、地域の方、ご家族様に来ていただき、日頃の様子を伝え、その時々課題について話し合っています。結果を職員に報告、検討を行いサービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に出席していただき、日頃の様子を伝えたり、地域の情報を教えていただいています。困難事例の相談をし、助言していただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の行動に始終気を配り、徘徊などに早く気づけるよう扉にチャイムをつけました。不安や困惑に対して、できるだけ早く対応し、落ち着いて生活できるよう心がけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナーに参加し、ホーム内ではスタッフ会議にて情報交換し、意見を自由に言い合っしてストレスのない環境をめざしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もおられ、制度についてミーティング等で研修を行い話し合っています。知識の向上、理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を理解、納得していただけるよう説明し、同意していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していますが、入れられることはなく、面会時又は電話連絡時、運営会議の場で意見要望を尋ね、ミーティングにて話し合い、反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時やスタッフ会議に於いて、意見、提案を聞き、話し合いの上反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の会議にて、各事業所の状況を把握し、又 随時の報・連・相にて対応されています。グループホームでは、楽しい職場づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修参加と、施設内研修により各自の向上心と、資質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、交流すると共に情報交換し、資質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、できるだけ入所前にご本人に施設見学していただき安心して入所していただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくことが御本人、家族にとって良いかをご家族とゆっくり話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとって一番良いと思われる方法を共に考え、情報提供しています。この方のニーズに合っていないと判断される場合は、系列の他施設を紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でできる事を励まし、していただいています。又、ボランティア来所時には歌を歌ったり挨拶をされます。隠れた才能が伸ばせるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、行事に来られた際、お世話になっているのではなく、本人家族の連携を密にして「当グループホームが良かった」と口々から聞かれるようにレベルアップに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、友人、知人が面会しやすいような雰囲気を中心掛け、又家族と共に外出を気軽にできるよう心掛けています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	若い頃にされていた編み物や手作業を同じ目線で会話しながらしています。できない方には別のできる事をさぐり、一緒にしていただくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先には情報提供を行い、退所後もご家族の方に会った時など、ご様子を聞いたり、次の施設入所後は時々立ち寄るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様としっかり向き合って気持ちを聞き出し、笑顔で過ごしていただけるよう支援し、職員で共有し対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時、生活状態、生活歴を把握するよう努め、ご家族の面会時に話の中で聞いた内容を職員全員で共有しケアに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、カンファレンス、毎日の記録や、職員同士の情報交換で一人一人の状況の把握に努めている。「できる事、できない事」のチェック表を作り、気づいた時に書き込み情報を共有するようにしています(H24年度目標達成計画の実施)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向に添うよう思い、要望等を聞き、スタッフ会議にてモニタリング、カンファレンスを行い介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録と、バイタル、食事量、レク参加状況、入浴等の記録とプランに対しての実績、職員間のノートを活用し、介護計画の見直しや日々のケアに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る事、やりたい事を日々探求し、メリハリを持てるように、ドライブやレストランでの食事、物作り、おやつ作り、行事など充実させる事で良い表情がありました。(H25目標達成計画の実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	凶書館に本を借りて出かけた後、八幡神社にお参りしたり、幼稚園の運動会など、豊かな表情がみられ、散歩も楽しみの一つになっています。地域のお祭りに参加し、踊りや太鼓を観たり、買い物をして楽しみました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診に来られ、診ていただけるので本人、家族とも安心しておられます。又、他科受診時にはGHと主治医より紹介状にて連携して頂けるので相談しやすいです。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師来所時に、個々の状況を報告相談し、健康管理しています。必要に応じ主治医、ご家族に連絡し早期対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状況を看護添書にて情報提供を行い、入院中の様子を聞き、退院時も状況把握する為連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入所時に家族の意向を聞き、入所後は必要に応じ確認し、本人が一番安心、安全で穏やかに過ごせる所を相談し、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	25年度は消防署の方にGHへ来ていただき救命訓練を行いました。26年度は法人本部にて行いました。再々行い自信をつけるよう努力しています。(H26年度目標他姓計画の実地)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、日中想定の方針の年2回の避難訓練では消防署、地域住民も参加していただき行っています。ライフライン切断想定での備蓄食体験をし、避難所の確認も行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの表情を観察しながら、その時々にあった言葉かけに配慮し対応するよう努めています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での会話を聞いてあげる事に努め、笑顔で優しく施接するようにしています。利用者の方が自己決定しやすいよう希望をきくようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活の日常のリズムを崩さないように健康管理を行い、一人ひとりのペースに合わせ、希望を聞きながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品、身だしなみ、おしゃれについての声かけをし、誉め言葉を添えています。衣類は季節にあった本人の好きな衣類を選択していただいています。出張理美容によりカット、毛染めをされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季の旬の素材を必ず入れるようにしています。お彼岸には利用者の方とおはぎ作りをし、冬には材料を切ったりほぐして準備していただき水炊き鍋をしました。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立にしています。毎食ごとに栄養項目を記入しています。一人ひとりにあった食事形態を配慮しています。水分量にも気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった口腔ケアが習慣になっています。できていないところは声かけ、仕上げ磨きの介助し、口腔内の清潔保持に努めています。週2回入れ歯洗浄剤使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにあった声かけ誘導を行い、排尿排便状態を記録し、トイレでの排泄が継続できるよう自立支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	引き続きオリゴ糖を毎日使用し、水分摂取と、繊維質の多い食物を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	殆どの方が毎日入浴されています。毎日楽しみにしておられます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は落ち着かれる様、個々にあった対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し服薬管理しています。処方内容を薬品カードで確認し、服薬忘れの無いよう習慣化出来ています。状態の変化に応じ主治医へ報告、相談し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今できる事をしていただき、できた時には感謝の意を表明したり、共に喜んだりして達成感を感じたり、人に喜ばれることにより、自分に誇りが持てるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩をしたり、庭で体操やレクリエーションを楽しんでいます。近くにスーパーができ、好きな物を選んでいただき食べました。北館との交流も行い、良い刺激になっています。ご家族との外食やショッピングを楽しまれている方もおられます。(H25目標達成計画の実施)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングに出かけました。好きな物を選んで買っていました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	残念ながら認知症の進行により、字が書けなくなった方もおられるが、「年賀状が書きたい」と言われた利用者様に時間を掛けて書いていただき、ご家族にとっても喜ばれました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングには食卓の区画とテレビを囲むソファの区画があり、利用者同士が落ち着いて過ごしておられます。季節の飾りを利用者と作ったり、壁の飾りや花を飾ることで季節感を出しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、ソファでは、利用者同士仲良く話されたり、思い思いに過ごされています。落ち着かない方がおられたら職員が付添過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や道具は家族と利用者が持参され独自の居室にしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所・事務所・リビングから居室やトイレが見渡せ、わかりやすく位置しています。利用者の動きは把握でき、利用者は自分の居室、トイレの場所は理解されています。		